

# エピソード80

## 保護者から支援につなげる 同意を得られません



このエピソードでは、認定こども園の園長先生の経験を紹介します。

なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験があります。

私は認定こども園の園長として働いています。数年前、入園したばかりのご家庭を支援につなげられなかった事例をお伝えします。

花蓮さんは前年の10月に、入園を希望し手続きをとったお子さんです。言葉が出ておらず、パズルや動くおもちゃには興味があるお子さんでした。次年度入園するお子さんは、前の年に親子教室に通い、少しずつ集団になれるように園としても働きかけたいところですが、親子教室の定員がいっぱいで、1月からしかご案内ができない状況でした。

1月から親子教室にきた花蓮さんは座っていれず、棚の上に置いてあるものをあちこち触って、走り回るお子さんでした。ほかのお子さんは、この時期になると、椅子に座って絵本も楽しめるし、先生の方を見て手遊びも楽しめるのですが、花蓮さんは全く興味を示さない様子でした。

4月になり入園した花蓮さんは集団の中に入ることはできず、興味のあるパズルをするか、先生のお話の時間や絵本の読み聞かせの時間に保育室内を走り回って、棚に上ったり物を散乱させたりするか、保育室を飛び出して、遊技場を走り回る毎日でした。そのため、1人先生をつける必要がありました。

このように支援が必要なお子さんは、個別支援の先生をつけるのですが、そのためには保護者の同意が必要となります。それに、花蓮さんにとって少しでも早く発達支援事業所等の支援につなげることが必要と考えました。

特別支援教育コーディネーターが何度も保護者に花蓮さんの様子を丁寧に説明し、保護者に実際に見学してもらいましたが、なかなか支援につなげる同意は得られませんでした。その結果、1か月して「このままではご迷惑をかけるので」「指導方針の相違」を理由に、花蓮さんは退園しました。大変残念でした。

今まで出会った支援を必要とするお子さんのご家庭は、このような園からの働きかけに応えてくださることがほとんどでしたので、これは初めてのケースでした。

様々なご家庭があり、様々な価値観がある今日、こども園の意向を伝えても、すべての方に理解していただけるわけではありません。保護者もこども園を選べますので、特に問題はないのですが、花蓮さんにご家族のことが今でも気になります。



## なみちゃんの一言

- 保護者さんから支援につなげる同意を得ることは難しい場合がありますね。

お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保  
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)